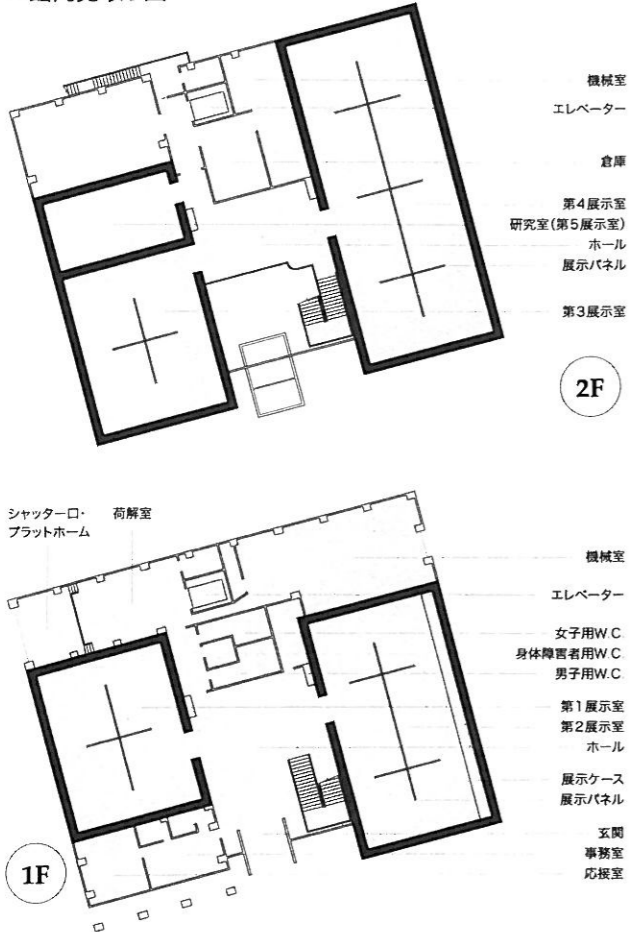


○館内見取り図



○展示室面積および壁面延長

室名	展示面積	壁面延長	パネル延長	(天井高)
第1展示室	174m ²	50m	30m	(3.5m)
第2展示室	241m ²	60m	51m	(3.5m)
第3展示室	164m ²	48m	26m	(3.5m)
第4展示室	328m ²	78m	80m	(4.0m)
第5展示室	77m ²	34m	0m	(3.45m)
合計	984m ²	270m	187m	—

- ※ 壁面およびパネル延長合計457m
- ※ パネルは取り外し可能
- ※ 第2展示室ガラス展示ケース壁面延長21m

利用案内

○開館時間・・・10:00a.m.～6:00p.m.

○休館日・・・水曜日/年末年始(12月29日～1月3日)

○常設展観覧料(税込)・・・一般:310(260)円
 ※()内は15名以上の団体料金
 大学生以下、70歳以上の方、及び障がいのある方とその介護者(1名)の方は無料。
 ただし、年齢が確認できるもの及び各種手帳等証明できるものをご持参ください。

○特別展観覧料・・・展覧会によって異なります

○展示室使用料(税込/単位:円)

	～平成19年6月30日	平成19年7月1日～
・第1展示室	4,200 (5,040)	5,000 (6,000)
・第2展示室	6,300 (7,560)	7,500 (9,000)
・第3展示室	4,200 (5,040)	5,000 (6,000)
・第4展示室	8,400 (10,080)	10,000 (12,000)
・第5展示室	2,100 (2,520)	2,500 (3,000)

※使用料の単位=1日(10時から18時までの8時間、使用期間が1日未満の場合は1日として計算。ただし準備または原状回復のために4時間以内で使用する場合は上記料金の半額。)

上記に定める時間(10時～18時)外に延長使用する際には、別途延長使用料が必要です。(事前申請のうえ許可を得てください。)

米子市美術館



〒683-0822 鳥取県米子市中町12番地
 TEL: 0859-34-2424/FAX: 0859-33-0679
 E-mail: art-yonago@coral.broba.cc
 http://www.yonagobunka.net/y-moa/
 12 Nakamachi Yonago-City Tottori 683-0822, Japan phone.+81-0859-34-2424 fax.+81-0859-33-0679



交通のご案内

- JRご利用の場合:
JR米子駅から約1000m
JR米子駅から各方面行きバス(除/松江方面)
市役所前下車(所要時間約5分)
- お車の場合:
米子自動車道・米子インターから約20分

駐車場のご案内:美術館横駐車場が満車の場合、米子市役所有料駐車場をご利用ください。
美術館ご利用の方は駐車カードを受付にお出しください。2時間以内は無料です。

IC100

米子市美術館



米子市美術館
Yonago City Museum of Art

米子市美術館外観(正面)

「米子の街に美術館を」

昭和58年6月17日、美術館建設を求める市民の声が実を結び、山陰地方初の公立美術館として米子市美術館は開設されました。

以来、市展・県展・米子市秋の文化祭など市民参加の美術展で親しまれるとともに、郷土ゆかりの作家の掘り起こしに着手し、年々その成果をあげています。

こうした掘り起こしをもとに構成する自主企画展を含め年に1～2本開催する特別展のほか、館蔵品を年間数期に分けて紹介する常設展を展覧会活動として行うと同時に、美術講演会、土曜講座、ワークショップなどを普及活動として開催しています。



○施設概要

敷地面積	1,713.95m ²
構造	鉄筋コンクリート2階建
建築面積	1階:1,050.74m ² 2階:1,011.41m ² 計2,062.15m ²
工期	昭和56年12月26日～昭和57年12月25日
建設事業費	4億8,000万円
防火設備	ハロンガス消火設備・火災報知器一式
空調設備	中央熱源・冷温水ダクト方式(展示室・ホール) 空冷式ヒートポンプ方式(収蔵庫 他)
エレベーター	油圧式エレベーター(2t)1基 H2.2m×W1.7m×D2.8m





國頭繁次郎《主よわれをあわれみたまえ おんみの大いなるおん憐れみによりて》1956年

米子市美術館の収蔵作品数は、平成18年度現在で1758点。

その大半は開館当初より継続して行っている郷土作家の掘り起こしの成果として収集されてきたものです。

絵画では、「洋画の技法」と「日本の伝統絵画の形式」との融合を果敢に試みた香田勝太。日展をはじめ様々な団体において重賞を果たした笹鹿彪。アメリカのアカデミズムを吸収し帰国、近年アメリカ・日本と相次いで復刻された「漫画四人書生」によってにわかに脚光を浴びている木山義喬。地方にあって、画家としての強烈な自意識と格闘しながら独自の画境を開いた國頭繁次郎など、ユニークな郷土出身作家の代表作が揃っています。



前田寛治《裸体》1927年



香田勝太《秋草》制作年不詳



笹鹿彪《楕圓形の肖像》1942年

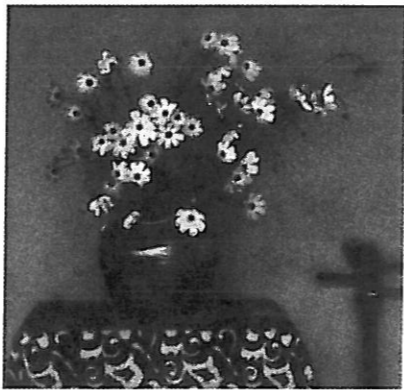
主な収蔵作家

- 洋画／前田寛治、香田勝太、木山義喬、伊谷賢蔵、笹鹿彪、國頭繁次郎、小谷良徳ほか、●日本画／早川幾忠、勝谷木徳、濱田台兒、丹慶三揚ほか
- 彫刻／戸田海笛、杵原精一、辻晉堂、堀内正和、中ハシクシゲほか ●書道／影山磐溪、山根溪石ほか
- 版画／橋本興家、長谷川富三郎、棟方志功、平塚運一、関野準一郎、北岡文雄、駒井哲郎、小作青史、巖崎、池田満寿夫、野田哲也、横尾忠則、木村茂ほか
- 写真／植田正治、塩谷定好、村上誠三、岩佐保雄、足立正太郎、岩宮武二、杵島隆、土門拳、林忠彦、緑川洋一、樋口忠男、杉本博司、山内喜一ほか



植田正治《ミワコさんの居る丘》1941年

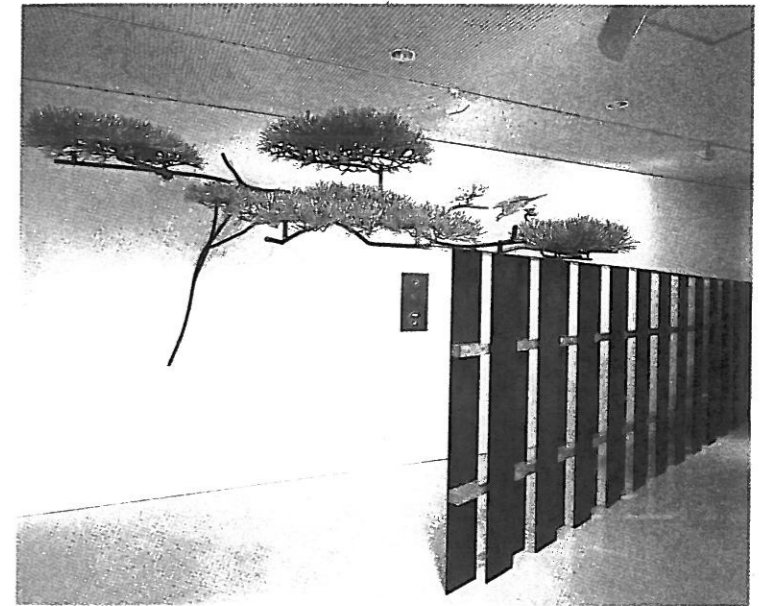
岩佐保雄《或る場面》1931年
塩谷定好《静物》1933年



米子市美術館の収蔵品 Museum Collection



辻晉堂《オマンマの塔》1977年



中ハシクシゲ《マツタカ》1997年

平成元年度から実施された写真収集5ヶ年計画により、収蔵品の大きな柱の一つである写真のコレクションが形づくられました。植田正治、塩谷定好をはじめ日本を代表する多くの写真家の作品、特に米子写真会、日本海倶楽部、写真家集団エタ派など郷土の写真団体や、中国写真家集団、銀龍社などに関係した写真家の作品を中心に構成されています。

また、文展・帝展で活躍しパリで客死した戸田海笛や、陶彫の世界で新境地を開いた辻晉堂など郷土ゆかりの彫刻家の作品、そして開館当初より収集されてきた近・現代版画のコレクションの充実にも力を注いでいます。